

モーニングセミナー 10月 テーマ「飛び立つ！とちぎの力」
—イタリアでの栃木県地酒試飲会—



講師：大川 吉弘 氏（栃木商工会議所 会頭）

ジャパンソルト(株) 取締役名誉会長

法政大学法学部政治学科卒業
昭和59年 栃木塩業(株) 代表取締役社長
平成11年 黄綬褒章
平成13年 ジャパンソルト(株) 代表取締役社長
平成20年 栃木県知事表彰
平成21年 旭日双光章
平成25年 栃木商工会議所 会頭

日 時：平成27年10月14日(水)

8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：70名

【講演要旨】

これから、今年の7月16日、17日、18日、イタリアのローマ、ナポリで栃木の地酒の試飲会を催してまいりました報告と栃木商工会議所の事業活動をお話しさせていただきたいと思ひます。

【栃木商工会議所について】

私は、栃木商工会議所の会頭に2年前推薦され、選任されました。それで、地方の経済がだんだんと勢いがなくなってきている、そういった中で地元経済をやっぱり活気づけなければならないなど、そのためには何をすべきか、経済団体として何をやっていかなければならないかといろいろ考えて、三つの特別委員会を設置いたしました。

その一つは、『郷土偉人顕彰推進研究会』です。若手経営者の人材育成を積極的にやっていくこと。そのために、日本を代表する企業の一つであります日立製作所の創業者、小平浪平氏が栃木市合戦場のご出身であり、経

済団体として小平浪平氏の顕彰を通じて、研究していくことによって、高い志と企業理念等を勉強させていただくことで若い人に奮起を促したいとスタートをしました。

次に『県南50万都市圏推進研究会』です。栃木市は関東地域におきまして東京、横浜に次いで3番目に商工会議所を設立されました。やはり都市のインフラの整備が十分でなく定住促進にも限りがある。小山の商工会議所とも交流し、補完し合いながら連携して、魅力のある都市づくりに進めていこうということで立ち上げました。

最後に、『産業振興（6次産業）推進研究会』です。栃木県としては、ベーシックはやはり農業県なので、これを意識しての6次産業化。1次産業では付加価値が付かないので、1次から2次に、加工に進み、流通もやる。究極はやはり、付加価値を付けて技術の高い、生産性の高い農業とこだわった農業、農産物こだわった加工品。また、お酒は、やはりお米で酒米ですから、酒造業者さんは農家の酒米を専門に作っておられるところと結んで、その米を利用し自身で加工して販売したわけです。これは6次産業化の、2次産業から1次を抱きかかえて行った6次産業化そのものであります。このように考えまして、今回イ

タリアでのチャンスがあったものですから、イタリアでの試飲会に結び付けたのです。

【イタリアでの栃木県地酒試飲会】

今回のきっかけは、イタリアのガンベロロッソという会社です。これは私が所属しているジャパンソルトがイタリアの食材を十数年輸入しており、今回、イタリアの食品だけではなく、イタリアの食文化全体を日本に伝えることによって、イタリアの食材がどのように利用されるのかをよく知ってもらおう。ガンベロロッソはイタリアの食のメディアで、イタリアのワインの格付け会社です。自社でチャンネル持っておりまして、スタジオ持って料理番組も放映している。そのガンベロロッソのトップが、昨年秋に私に会いに栃木を訪ねてくれましたので、私は県庁にご案内し、知事、副知事にも面会し、交流させてもらい今回の運びとなりました。従来、日本の酒を海外に輸出するという場合に、JETROなり国なり県が、向こうのワインフェアや、食品のフェアに参加し、そのブースを借りて、それぞれ中に押し込んで、ブースに立ち寄られた方に試飲していただいてということです。しかし、今回は相手がイタリアの食のメディアであるということで、場所等を全部用意いただき、また、ガンベロロッソのソムリエが栃木の地酒を全部テイスティングしていただきました。この酒がどんなタイプの酒か、これがどんな料理に合うか分かった上で、来場者に説明をしました。

また、駐イタリア大使館もこのイベントを協賛したい、後援したいということで、ロゴも使っていただいて結構だし、後援するのに大使館の職員も応援に来ますということで、大使以下職員の皆様、大使夫人にも出席いただいて、いろいろなバックアップをいただきまして、本当に盛会に開催できました。

私は来年からこれをビジネスに、具体的に結び付けていくことをやっていくわけですが、

そもそもは栃木商工会議所が6次産業化の研究を通じてビジネスチャンスをいろいろ考えていこうと。栃木の食文化の向上のためにイタリアのいろいろな料理、そういったものも栃木で、イタリア料理に向く野菜だとかそういったものや、またチーズだとかワインだとか。生食用のブドウだけではなく、それをワインに作り直してやるとか、それをレストランで飲ませるとか、お土産に持って帰ってもらうとか。ということで今後、交流人口を増加していくためのビジネスの切り口にしたいと、そんなことで考えております。

【終わりに】

栃木県はベースがやはり工業県、工業団地を栃木県の地図から取り除きますと農業県ですから、そういう面では今後、農業、6次産業化を、2次産業、3次産業の立場からいろいろ研究、考察していくことによって、いろいろなビジネスや第二創業が出ていけるんじゃないかとそんなことで始めております。

今回のイタリアでの試飲会は、日本のお酒の専門的な話をよくご理解いただいた。それから、日本のカクテル、宇都宮はカクテルの街ですから、そのバーテンダーさんをお願いして現地に2名来ていただいて、日本の酒文化の一端を見ていただいた。いろいろな面で、ただお酒の試飲だけでなく、料理とのマッチングなどを勉強でき、非常に有意義だったと自負しております。

今後ともひとつ、色々な面で、お互い経済人ですから、栃木県のために共に尽くしてまいりたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。



講師：塚本 竜也 氏

NPO法人 トチギ環境未来基地 理事長

昭和51年生まれ

大学では森林資源を専攻、卒業後、渡米。シアトルの環境NPOで半年間の研究に参加。帰国後、NPO法人NICEに入職。

平成22年 トチギ環境未来基地を設立。

NPO法人 ユースサポーターズネットワーク理事

NPO法人 とちぎボランティアネットワーク理事

日 時：平成27年11月11日(水)

8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：59名

【講演要旨】

皆さま、おはようございます。NPOトチギ栃木環境未来基地代表の塚本と申します。今日お話しするテーマが、企業が新たな価値を生み出す協働CSRということで、特にNPO側から見て、企業の皆さまへの期待や、そもそも皆さまの中にも、NPOってことは聞いたことはあるけれども、実態どうなんだろうとか、何か怪しげな所も多いんじゃないかとか、そういった思いをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますので、NPOのことについて少し理解を深めていただけたらいいなというふうに思っています。そして、協働というもう一つの大きいテーマがあります。これからのより良い社会をつくるためには、いろいろな方が手を合わせて取り組んでいかなければいけない問題がたくさんあります。そのときにNPOがパートナーになり得るかどうかということなども考えながら話を聞いていただけるといいなというふうに思っています。

栃木県内にもさまざまな地域課題、社会的な課題があります。一例ですが、例えば少子高

齢化社会が進む中で、独居、1人でお住まいの約52,870人お年寄りの方。それからよくニートという言葉も広まりましたけれど、若年無業者という、働くことに困難を抱えている約10,800人の若者たち。それから子どもの中では相対的に貧困状態にある子が約15パーセント、6人に1人が相対的な貧困状態にあるというデータ。

これまでは、こういった困っている方への支援ってというのは行政が公的なお金を使って支えてきたということがあります。ただ、これからの日本を考えていくとき、やはり、税収も減ってきます、高齢者も増えてくるので、なかなか広く支えていくっていくことは難しい。または、制度と制度のはざまにいてなかなか公的なサービスを受けにくい方などもいらっしゃる。そういった方をどうやって支えていくかっていうことを考えたときには、やはり、その中ではやはり企業の皆さまの力っていうものに社会としての期待が高まっていると思います。CSRの本質というのは本業を通してもっと良い社会をつくっていく、そのことだと思っています。

私たちは自然環境の保全ということをテーマに活動を行っております。皆さんの子どもの頃にはすごくきれいだった里山や裏の森が、なかなか経済的な価値を持たなくなってきた、荒れてしまった所も増えている。こういった所に若い人たちの力を集めて一緒に整備をしていく

てことを日常的にやっています。こういった場では地域のお年寄りの方と若い人たちが一緒に作業をしながら、いろんな話をしたりとか、交流の場としても大事だと思っています。学ぶことは若い人たちはたくさんあり、こういった活動を評価いただきまして、平成25年度栃木県経済同友会の社会貢献活動賞を頂きました。これは、本当に大きな励みになっています。改めてお礼申し上げたいと思います。

では、企業の皆さまが社会貢献活動を積極的に取り組むことでどんなメリットがあるのかというと、一つ目は、本業も伸ばせる可能性がある。先ほど申し上げました商品を選ぶときの理由っていうものが価格だけではない、社会にどれだけプラスが生まれるかっていうことで選んでいる人たちというのも一定数いる。二つ目は、社員が変わる。ボランティア活動に行くと、日頃見えなかった自分たちの会社のこのサービスが、こういうふうな社会に役立っているんだとか、こういうふうな人たちにも届いているんだなということを実感したり、いわゆる優秀な人材がそんなに採用コストを掛けなくても自然に集まってくるというようなこと、そして、社員の皆さまにとっては、自分の会社をもっと好きになる、誇りに思う、そういった機会ができると思います。三つ目は、企業イメージアップ、PR機会の増加。良い情報というものは自走していきますので、勝手に広がっていく。そういったことを生み出していくには、やっぱりこの企業は社会にこんなにいいことをしているんだってことが伝わると『いいね!』をしている若者たちが多く感じています。デメリットとしては、やはり多少のコストは掛かってしまうというので、時間をロスする部分がかもしたらあるかもしれませんが、機会損失もあるかもしれませんが、相対的ににおいてこれから社会貢献活動を企業の戦略の中に取り込んでいくというのは、メリットのほうが大きいのではないかな、とっております。

社会貢献活動、やるだけではなくて、やはり成果をいかに上げていくかということが大事で、

そのときに色々なポイントがあると思いますが、きょうは協働もテーマですので、パートナー選り、例えばNPOと組んで何か新しい仕組みを社会につくり上げようとしたときに、どんなNPOを選ぶかというのはとても大事なことです。この団体大丈夫かなということなんかを確認いただくときに、エクセレントNPOという指標があります。これは、NPO業界の中でも情報公開が進んでいなかったりとか、社会的な信用を得ていないということなんかもあり、こういった基準を満たしているものは、堂々と紹介できるNPOにしようということで基準を作りました。こういったものなどを参考にさせていただいて、こういった指標をNPOを見るときの厳しい面として見ていただいで選んでいくと、間違いが少なくなってくるのではないかなと思っております。

【終わりに】

NPOが取り組む分野というものは多様でして、現在大きく分けると20分野あります。皆さまの地域でもこのような活動に取り組んでいるNPOもあると思います。発信が下手な所が多いのでなかなか目に触れる機会は少ないかもしれませんが、地道に取り組んでいる所も多いと思います。皆さまの企業理念や本業と併せて、どの分野において私たちは社会に貢献できるか検討させていただいて、その中でこんなパートナーをやれたらいいなという具体的な道筋を考えていただいで、そして何か新しい動きを生んでいただいでいいなと思います。そのときにやっぱ、それでもよく分からないというときには、栃木ボランティアNPOセンター「ぼぼら」で、そういったマッチングの機能なども果たしておりますので、「ぼぼら」にご相談に行ってください。駆け足になりましたけれども、皆さまとまたどこかの現場でお会いできる日がくるとうれしく思います。きょうは貴重な時間をありがとうございました。

モーニングセミナー
12 月

テーマ「飛び立つ！とちぎの力」
—ホントは奥深い、ビールの話—



講師：神元 佳子 氏

キリンビールマーケティング(株)栃木支社 支社長

福岡県北九州市生まれ

平成2年 キリンビール(株)九州支社 入社 福岡営業部

平成9年 同社 中国支社 営業企画部

平成14年 同社 広島支社 流通部

平成18年 同社 広島流通部長

平成20年 キリンホールディングス(株) 多様性推進室長

平成26年 キリンビールマーケティング(株) 栃木支社長

日 時：平成27年12月9日(水)

8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：67名

【講演要旨】

キリンビールマーケティング栃木支社長の神元と申します。本日はこのような場を与えていただきまして、本当にありがとうございます。

本日は、『本当は奥深いビールの話』をさせていただきます。格式高い経済同友会のモーニングセミナーに朝からお酒の話で恐縮ですが(笑)12月ということで本日は肩の力を抜いてお聞きいただければ幸いです。ビールという皆さん「取りあえずビールかな」という方が多いと思いますが、実はビールにもいろいろな種類があって奥深い飲み物なのです。そのようなことをお伝えし、もっとビールをおいしく楽しく飲んでいただきたいと思っています。

キリンビールマーケティング栃木支社では、栃木県の皆さまに愛されてこそ！ということで、栃木のお客さまが大切に思っておられるものをずっと応援し続けて参りました。例えば今年日光東照宮400年式年大祭ということで日光東照宮さんのデザイン缶を発売したり、来年は中身もパッケージも栃木県のため

だけに造る、栃木でしか飲めない「栃木の一番搾り」を発売したり、またご当地栃木県の誇りとちおとめで『キリンチューハイ氷結とちおとめ』を作らせていただいたり、栃木ならではの商品でもっともっと皆様に喜んでいただきたいと思っています。

《Ⅰ》ビールのなりたち

ビールは、一言で言いますと、大麦の麦芽、水、ホップを主原料として発酵させたお酒です。発酵というのは酵母の働きによって原料から生み出す糖分を、アルコールと二酸化炭素に分解するという工程です。さて、昨今ビールといいましても、いろいろな種類があります。実は日本では、原料に占める麦芽の使用比率や原料によって税金が異なってます。日本国内で法的にビールと定められているものは、原料に占める麦芽の使用比率が67パーセント以上のものということになっており、それ以下のものを発泡酒や新ジャンル(第三のビール)と呼んでいます。

《Ⅱ》ビールとの関わり

ビールについての世界最古の記述が残っているのは、メソポタミア文明の遺跡で発見されました、モニュマン・ブリューという5000年前の石板です。そして、古代のエジプトでは、ピラミッドの建設の作業員への報酬とし

て、ビールが提供されていたということです。

そしてわが日本とビールの関わりですが、日本にビールが来たのは江戸末期だと言われています。開港するにあたり、輸入ビールが日本にも入って参りました。ちなみに「何で麒麟なのですか」ということをよく言われます。当時舶来物、外国から輸入された高価な物には動物の名前をつけるのが流行っていたそうなのです。ただこの麒麟は動物園にいるキリンではありませんで、中国の伝説上の麒麟と言う霊獣がモデルになったと言われています。

《Ⅲ》ビールができるまで

まずビールの原料はビール大麦です。これにお水を与えて、少しだけ発芽させます、これを麦芽と言います。この麦芽が原料になります。実は栃木県は、佐賀県に続いてビール大麦の生産量が第2位なのです。

さて、次に仕込みという工程に入ります。先ほどの麦芽にお湯を加えて煮込んでお粥状のもろみを作り、そのもろみをろ過フィルターでろ過します。その時最初に流れ出る麦汁を一番搾り麦汁と呼びます。その麦汁にホップを加えてビールならではの華やかな香りをつけ、ビール酵母を加え発酵すると、泡と炭酸ガスとアルコールになっていきます。1週間たつと若ビールというビールの素になりその後貯蔵タンクに入れて1カ月間、低温で熟成をしてろ過した後、瓶・缶・樽に詰めて出荷をいたします。

『キリン一番搾り』というビールですが、もろみをろ過する際に一番最初に流れ出た一番搾り麦汁だけを使ったビールです。通常のビールはそのもろみにお湯を加えもう一度麦汁を搾ります。2回目に搾った麦汁なので二番搾り麦汁と呼びます。通常のビールは一番搾り麦汁と二番搾り麦汁をブレンドして作りますが、『キリン一番搾り』は世界で唯一一番搾り麦汁だけで作られたビールです。発売当初プレミアムの価格で売べきじゃないかということで社内でもいろいろもめたそうですが、通常のビー

ルの価格でお出ししています。

《Ⅳ》ビールもいろいろ

さて、実はビールの種類、ビアスタイルは、世界に100以上あると言われています。それを大きく分けると、ラガータイプ、エールタイプ、その他に分けることができます。日本はドイツやチェコと同様ラガータイプが主流です。日本の気候や食文化がすっかりとした喉越しの良いお酒を好むということで、ラガータイプが主になったようです。

《Ⅴ》ビールをもっとおいしく

ビールを美味しく飲むために。まず1つ目、泡があるからビールはおいしいということです。実は泡はビールが空気に触れて味が落ちるのを防いでくれる大切な役割を持っています。

2つ目、ガラスのキレイさが非常に大事です。ビールを入れるガラスがキレイに洗浄されていると非常に泡持ちが良く泡がきめ細かく、そして美しく最後まで泡が残っているそんな状況になります。

3つ目、ビールの注ぎ方です。三度注ぎというビヤホールで飲むような泡の生ビールをご家庭でも味わうことができます。まずビールをグラス全部が泡になるように注ぎます。次に泡が半分くらいになると、缶ビールをゆっくり注ぐと少し泡が持ち上がります。最後、もっとゆっくり注ぎ入れるとグラスから1～2センチ泡が持ち上がりとてもクリーミーな泡のビールになります。

4つ目、保管方法にご注意ください。日光を避けて、冷やしすぎず、塩分や油の近くは避け、強いショックを与えないという事です。最後にこれからもビールを飲む際はおつまみを食べながら、体調に留意して、そして何より飲み過ぎに注意してください。

12月、忘年会シーズンになりますので是非『キリン一番搾り』をご指名いただけますよう、そして皆さま体調を管理しながら楽しくお酒とお付き合いいただければと思います。今日のご清聴、誠にありがとうございました。

栃木交流研究会・未来経営研究会 合同視察「日光・湯西川視察」

栃木交流研究会会長 関戸 優 (SMBC日興証券(株) 宇都宮支店 支店長)
未来経営研究会代表世話人 郡司 祐一 (株関東農産 代表取締役)



日 時：平成27年10月30日(金)～31日(土)

会 場：日光金谷ホテル、日光東照宮、
輪王寺、湯西川「本家伴久」 他

栃木交流研究会では、栃木の魅力を全国に発信するため、未来経営研究会では人間力向上に取り組むために、それぞれ調査研究活動を行っている。

今回は、「400年式年大祭」で盛り上がる日光と、9月の「台風18号による大雨洪水災害」で大きな被害を受けた湯西川の視察を行った。両委員会から19名が参加した。

〔1日目〕日光特別授業：テーマ「聖地日光」



《(株)下野新聞社 特別編集委員 綱川榮氏》

綱川氏は、下野新聞の長期連載「聖地日光」を担当し、今までに900本以上の論説やコラムを執筆している。日光の歴史や史跡に精通し、日光の見どころも知り尽くしているスペシャリストである。今回は1時間という短い時間であったが、日光開山から、家康の日光鎮座、日光東照宮の世界遺産登録まで、知られざる日光の魅力を存分に聴くことができた。

〔1日目〕輪王寺・日光東照宮 視察



輪王寺では、元同友会事務局に勤務していた住職の方に特別の案内をしていただけたという幸運にも恵まれ、輪王寺の歴史からその役割について、特別講義を受けながら楽しく



見学することができた。

次に、400年式年大祭で盛り上がる日光東照宮に移動。「三猿」「眠り猫」「鳴龍」など、見どころいっぱいの東照宮を、秋の紅葉と共に堪能。綱川氏の特別授業を聞いた後ということもあり、より一層味わいながら見学をすることができた。日光の歴史と文化を存分に満喫した視察となった。

宿泊：湯西川「本家伴久」

視察で疲れた体を癒すべく向かったのは、湯西川の温泉宿「本家伴久」。平家直孫の宿として、江戸時代から続く歴史を感じる宿。9月の大雨水害で道路の復旧が心配されたが、無事に辿り着くことができた。

特別講話：テーマ「湯西川の観光戦略」



《日光市観光協会 副会長 山城晃一氏》

夕食の前に、日光市観光協会副会長の山城晃一氏から、湯西川の観光戦略について特別講話を受けた。

冬は雪に閉ざされ、観光客がめっきりと減ってしまっていた現状を打破すべく、「かまくら祭り」や「かまくらバーベキュー」などを

次々と企画し、観光客を呼び戻すまでの過程を分かりやすく説明していただいた。同じ目的の下に、各旅館が力を合わせて準備し、一大イベントに育てるまでの苦労話を、興味深く聴くことができた。



特別講話の後には、囲炉裏を囲んでの楽しい夕食となり、山の幸に舌鼓を打ちながら、様々な話題に花が咲いた。夕食後は、川の音を聴きながらの露天風呂で、一日の疲れを洗い流した。

〔2日目〕：湯西川「平家の里」見学

2日目は視察組とゴルフ組に分かれ、それぞれの行程でスタート。視察組は、湯西川の平家伝説にまつわる観光スポットを巡った。

まずは「平家落民俗資料館」へ。平家落人伝説にまつわる「兜・鎧」「刀」「着物」など、当時から伝わる宝物や生活用品を見学し、湯西川と平家の歴史を更に深く学ぶことができた。



次に、「平家の里」を見学。こちらは、平家落人の生活様式を後世に残すため、村内の茅葺き屋根の民家を移築し再現した民族村。



ここでは、6月に「平家大祭」というお祭りが開かれ、平家絵巻行列が見られるとのこと。平家落人伝説にまつわる資料や展示物を見ながら、落ち延びてここに隠れ住んだという平家一族の遠い過去に思いを巡らせた。



そしていよいよバスに乗って、ダム湖の中に突入。バスの後ろにはスクリーンが付いており、紅葉に染まったダム湖の中をゆったりと遊覧した。



〔2日目〕：ダックツアー体験

平家の里を巡った後は、国産初の水陸両用バスに乗ってのダックツアー。



2日間にわたる、日光・湯西川の視察は、日光の社寺、湯西川の平家伝説などの歴史だけではなく、紅葉も含めた日光の豊かな自然も満喫できたツアーとなった。



まずは、ヘルメットかぶって川治ダムの中へ。ダムの中に入って下から見上げた時の迫力はなかなかのもの。全国のダムでもらえるという「ダムカード」も忘れずに手に入れた。

〔2日目〕：親睦ゴルフ大会

一方ゴルフ組は、日光カンツリー倶楽部を舞台に熱戦を繰り広げた。会員同士の懇親が一層深まった。

優勝 藤咲 光司 氏 (株) 奴寿司 代表取締役)
 2位 関 雅樹 氏 (株) 壯関 取締役会長)
 3位 佐藤 伸之 氏
 (佐藤建設工業(株) 代表取締役副社長)

第3回地域振興委員会「講演会」

演 題：「栃木の地方創生・地域再生を考える」

講 師：栃木県立博物館館長 須藤揮一郎 氏

委員長 村上 龍也（株村上 代表取締役）



【講師略歴】

東京大学法学部卒業後自治省に入省。その後、栃木県総務部財政課課長、総務部部長などを歴任し、平成15年4月に栃木県副知事に就任。副知事職を8年間務める。その後、とちぎのいいもの販売推進本部長を経て、現職の栃木県立博物館館長に就任。地元新聞への寄稿などを通じ貴重な意見を県内に発信している。

日 時：平成27年11月4日(水)

17：00～18：30

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ

出席者数：39名

「魅力ある地域の創造」というテーマのもと調査研究活動を行っている地域振興委員会では、第3回委員会にて、元栃木県副知事で現栃木県立博物館館長の須藤揮一郎氏に御講話をいただき地域振興について考察した。

しかし、物語を創る上でおさえるところはおさえなければ、ただの夢物語で終わってしまいます。今年は物語を創っていく上でおさえべきことのインプット・勉強の時期と位置付けていますが、本日は須藤様をお招きし栃木県の地方創生についての御講話をいただきます。多方面に深い知識をお持ちの方ですので、我々の活動にとって意義のあるお話を聞くことができるはずです。

【村上委員長 挨拶趣旨】



地域振興委員会は「未来の栃木はどうあるべきか」「栃木はどのような地域になるべきか」を皆で考え、夢のある物語を創っていくという目的のもと活動しています。当委員会は地方創生の根幹となる部分を調査研究しているわけですが、常に楽しく活動し夢のある未来を描き出していきたいと考えています。

【須藤氏 講演要旨】

～はじめに～

本日はこのような場にお呼びいただき、ありがとうございます。

先日発表された「地域ブランド調査2015」では栃木県が初の30位台となる35位になりました。皆様が立ち上げた情報ブログ「これトチ！」のようなPR活動の積み重ねの結果だと思えます。そのような活動に敬意を表します。

～地方創生と博物館の課題の共通点～

地方創生の鍵は「いかに地域の人口を維持し、また交流人口を増やすか」にあると私は考えています。これは「いかに入館者を増やすか」という博物館の課題に共通点があります。私が博物館館長に就任して感じた3つのことを紹介します。

1つ目です。情報発信力不足です。博物館

がどのような場所なのか、世間に理解されていません。発信力が非常に弱いのです。

2つ目です。博物館には外からの目が必要だということです。博物館の展示品の中には魅力的なものがたくさんあります。ところが、博物館で働く関係者がそのことに気付いていないケースが多々あるのです。内からの目では気付けないのです。

3つ目は、イベントを開催する際には、実施する職員側も楽しんでやるべき、ということです。集客イベントを行う時に、職員から本来業務ではないという不満が感じられることがあります。これでは来場者を楽しませることはできないでしょう。

これら3つのことは地方創生を考える上でのヒントとなります。地方創生は、まずは住民が自分たちの魅力を発掘・理解し、それを楽しみながら外に向け発信していくことが大切なのです。また、この地域振興委員会には大手企業の支社長・支店長が多く在籍しています。これは素晴らしい「外からの目」となるでしょう。

～地域金融機関と地方創生～

地方創生の取組において地域金融機関の果たすべき役割には大きなものがあります。国もそう位置付けています。足利銀行と常陽銀行の統合が発表されました。今後この統合が栃木県の地方創生にどう影響していくか注視すべきでしょう。栃木県を代表する金融機関のひとつである足利銀行の主体性がどこまで維持されるのかが注目点となります。

経済活動は県境や国境がなくなりましたが、人々の日常生活そのものはそれほど広域化していないと私は感じています。地域金融機関には地元根差した経営を期待しています。

～集落崩壊の危機～

人口減少時代に突入した今、多くの地域が集落崩壊の危機にさらされています。人口減少が地域内経済の縮小につながり、企業・商店の撤退・廃業、そして人口流出・人口減少がさらに進んでいく、という悪循環に陥っているのです。地域維持のためにはその地域自

体が活性化するしかないのです。

また、平成の大合併により市町村合併が進みました。合併推進の際、財政を優先していた為、伝統文化消失・歴史的地名消失・行政の目の届かない地域の増加等、負の問題もできてきました。これが集落疲弊につながった面もあるでしょう。

私個人的には道州制には懐疑的です。栃木県としては「茨城・栃木・群馬・新潟・福島」の組み合わせが最適だとは思っていますが、州都にならなかった県庁所在地の運命をよく考えるべきでしょう。そもそも道州制にしてしまうと区域が広すぎて「住民自治」が成り立たなくなるのではないかと懸念します。知事選での投票率でさえ低いのに、と思います。

～東京一極集中是正～

現在は、高度成長期、バブル経済期に次ぐ戦後3回目の東京一極集中の時代です。今回の一極集中は過去のものとは異なり、20代後半から30代前半の年齢層が東京から転出しない、つまり出身地に戻らないことが要因の1つとされています。

若者は、出身地に働く場所がないと考えているようです。栃木県においても、栃木県経済同友会社会問題委員会が県内の女子高校生に行ったアンケートでは、80%が県外進学希望であり、大卒後もそのうちの75%が栃木県に戻る意思がない、との結果が出ました。しかし一方では概ね地元には愛着を持っている、との結果も出ています。私は栃木県内には優れた企業がたくさんあると思っています。しかし、情報発信力が弱いことは否めません。栃木県の企業はもっと情報発信に努めるべきだと考えています。

近年の交通網の整備充実には目を見張るものがあります。しかし交通が便利になったがために、企業の支店が集約され地方都市から人員が引き上げられる、という例もみられます。交通網の充実にはこのような課題も伴うことを認識しておくべきでしょう。

～地方創生とは～

地方創生を一言でいえば「住んでいる人が

住み続けたいと思う地域をつくること」でしょう。住民自身が地域を愛し、地域に誇りを持ち、そこでの暮らしを楽しんでいなければ、外部の人が魅力を感じるはずがありません。そのような地域になるためには2つのことが必要となるでしょう。

1つ目が地域経済の活性化です。住民が生計を立て、住み続けるために不可欠な地域内の雇用の維持・創出が必要です。衣食足りて礼節を知る、と言いますが、まずはモノの豊かさが必須なのです。モノの豊かさがあって心の豊かさにつながります。経済的基盤は重要です。

2つ目が地域コミュニティの再生です。地域コミュニティの再生に動き出している自治体も増えてきています。しかし栃木県内においてそれは簡単ではないようです。要因には自治体・町内会幹部の高齢化が挙げられます。そこに新しいものを受け入れない県民性も加わり、県外からの移住者が自治会等に参加し難い雰囲気が出てきていると感じます。また、方言を強調しすぎると使えない人間はそのコミュニティに入りにくくなります。近年方言を見直す動きがあり、それを否定はしませんが、今挙げたような例もあることには注意すべきです。

～終わりに～

地方創生のポイントは「人」につきまます。人は「ニワトリ型人間」と「ブタ型人間」の2種類に分けられます。ハムエッグを作るとき、ニワトリは卵を差し出しますがブタは自らハムとなります。ブタ型人間は地域で生業を営む人々の中からしか生まれません。地方創生は、そこに住み活動する皆様が自ら取り組まなければなりません。

また、継続は力となります。新しいことを始めても続けなければ伝統は生まれません。箱根駅伝がいい例です。年々右肩上がりに発展しています。皆様が地方創生を自分事と捉え、継続的に取り組んでいかれることを願います。

【とちぎ創生15戦略について】

須藤氏講演の中で「とちぎ創生15戦略」についての件くだりがあった。今後4つの目標の中の

15の戦略についてどれだけ具体性を持たせられるかがポイントだろう、と述べられた。以下須藤氏のご意見を簡潔にまとめた。

(基本目標1)

～とちぎに安定したしごとをつくる～

- ・地域内循環型の小規模ビジネス育成。コンビニ駐車場を有効活用し地域農産物の販売。
- ・農業の6次産業化。あまり広げすぎるべきではない。花畑牧場の失敗例がある。
- ・起業支援はリスクが大きいので出資制度が向いている。行政の補助制度も出資にすべき。
- ・TPPの影響から農家の2極分化は進んでいき集落営農は限界。企業経営化し耕作放棄地を活用し多品種少量型農業を検討。
- ・成長分野3K（環境、健康、観光）を育てる。アジア富裕層向け医療観光。隠れた観光資源の発掘。大谷地区は一見の価値。非日常性をつくり観光誘客。歩ける観光地づくり、宇都宮中心部・日光の立木観音周辺。

(基本目標2)

～とちぎに新しいひとの流れをつくる～

- ・災害に対する相対的安全性アピール。
- ・大消費地である東京への近接性を利用。
- ・移住促進はターゲットを絞った戦略を。若者には職の確保、定年退職者には生涯活躍のまち、3地域居住希望者には地域としての総合的な魅力。隣接県立地企業従業員の誘致。

(基本目標3)

～とちぎで結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる～

- ・若者の定住促進策は当然必要だが、行政職員・地元住民の意識改革が最重要。

(基本目標4)

～時代に合った地域をつくり、とちぎの安心な暮らしを守る～

- ・県内で公共交通に独立採算を求めるのは疑問。
- ・LRT成功への一番の課題は市民の意識改革。車より不便でも公共交通を使う覚悟。
- ・まちの中心部にオープンスペースを創出。

第3回国際化推進委員会 三重県視察

委員長 益子 博美 (機花のギフト社 代表取締役社長)

日時：平成27年11月5日(木)～7日(土)

場所：三重県

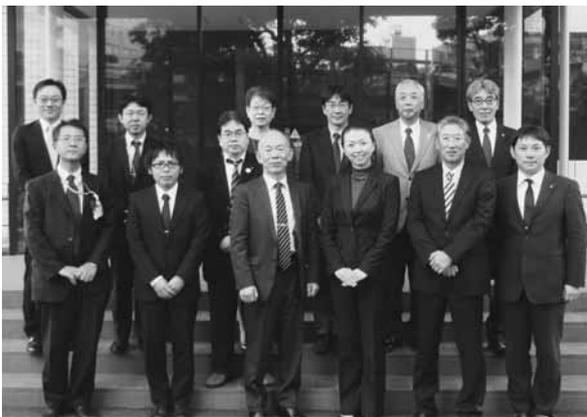
参加者：11名

当委員会では、「グローバル人財の育成」～若者にチャレンジ精神を～を活動テーマとして活動を展開しており、今般、文部科学省の補助事業で当同友会で支援している「トビタテ！留学JAPAN～地域人材コース～」のプロジェクトの更なる拡充の為、採択された全国7地域のうち、具体的なテーマとして、「航空宇宙産業分野の企業へ就職をめざす人材の留学支援」と打ち出している三重県庁と三重県の航空宇宙産業企業を視察することとした。

【懇談会】

場所：三重大学

参加者：当会員、栃木県総合政策部、宇都宮大学、三重県庁雇用経済部、中部経済同友会、三重大学大学院



《三重県における産学連携への取り組み》
三重県地区地域懇談会 代表世話人 雲井 純 氏

①三重県経済の特徴

- ・全国と比べ、第2次産業の割合が多い。
- ・地域により経済規模に格差
- ・製造業の割合が高く製造品出荷額1位は輸送用機械器具

②産学官連携の動向

- ・志摩市・百五銀行によるオリーブ栽培事業
- ・航空宇宙産業進出支援
- ・「トビタテ！留学JAPAN」プロジェクト
- ・三重県にもMRJの生産拠点が進出



《三重県「トビタテ！留学JAPAN」への取り組み》
三重県雇用経済部 課長 山路 栄一 氏

①プログラム実施の背景

- ・自動車、電子・電機、石油化学産業に続く新たな産業の柱として「航空宇宙産業」を振興
- ・県内にグローバル人材が不足している危機感

②プログラム内容

- ・将来、県内の航空宇宙関連企業等への就職をめざす学生に対して、趣旨を理解させ、事前に企業の期待を伝え、目的意識の高い留学を実現
- ・航空宇宙産業の中心地である欧米等で知識と技術を学び、インターンシップや報告会等を通じて、成果を県内企業にフィードバック。



伊勢志摩サミット2016カウントダウン

③プロジェクトの課題

- 周知が十分でなく、県民全体への運動になっていない。
- テーマ的に、文系学部、文系大学の関心が低い。制度の周知を進める必要がある。
- 民間企業の寄附について更なる働きかけ
- インターンシップの実施について、インターン受入れ企業に、メリットを提示する。
- 現在、県職員が事務局であるが妥当であるか。
- 優秀な人材の地域への定着、Uターン取組み
- グローバル型人材の活用方法



【視察先① 大起産業(株)】

大起産業(株)は、昭和36年に、油圧機器の総合商社として名古屋市に創業し、現在は製造業へと業態転換。事業領域は、産業機械事業や航空機事業など。MRJの量産化で、中胴前部や後部のドア付近の構造(カットアウトバレル)を手掛ける。

航空機はハイテクであり、オートメーション作業のイメージがあったが、実際は1本1本手作業で、エアハンマーと金属部品をもってリベット打ちをして、熟練の技術を直接、肌で触れることが出来た。



【視察先② 三重樹脂(株)】



三重樹脂(株)は、昭和46年創業。事業内容はウォータージェット加工、断熱板研磨・加工。国内中小企業で唯一、炭素繊維が使用されているボーイング787の主翼フラッグ部品をウォータージェットで加工することができる。



超高水圧で様々な部品を切断・切削加工するウォータージェット技術は、熱による部材の変形・変質といった難点をもつレーザーに比べ、より精密な加工ができ、作業時間も短く、効率性が高く、他社の追随を許さない。世界各地から依頼が殺到する。



2015年度全国経済同友会代表幹事円卓会議



日 時：平成27年11月10日(火)

8：00～18：00

場 所：ホテルオークラ福岡

2015年度の「全国経済同友会代表幹事円卓会議」が福岡県のホテルオークラ福岡で開催された。午前中、地元福岡に本社を置く(株)安川電機の産業視察を行った。当社は今年創立



100周年を迎え、産業用ロボット等メカト

ロニクスで世界トップメーカーを誇る。当社の歴史や工場の概要の説明を受けたあと、主力製品の製造過程などを見学した。

視察後の会議では、(公社)経済同友会の小林代表幹事、福岡経済同友会の貫代表幹事の挨拶の後、今年の全国経済同友会セミナー金沢大会の収支報告や全国経済同友会セミナー運営等の議事について協議がなされた。

◆第29回全国経済同友会セミナー(岡山大会)

日 程：2016年4月14日(木)、15日(金)

テーマ：世界に輝く地域を創ろう～桃太郎の郷(くに)から発信

また、今回の会議の中で、各地同友会(北海道、栃木、埼玉、新潟、静岡、滋賀、神戸、広島、土佐の9同友会)から、地方創生や地域活性化に向けた取組み状況についての報告が行われた。

当会は栃木県や大学コンソーシアムとちぎと連携し、栃木県の活性化に向け実践的な事業を行っており、また、3年後の全国セミナーの開催も控えていることから、



小林筆頭代表理事が各委員会のこれまでの活動の成果や栃木県の総合戦略等について報告を行った。

会議の後は、「九州観光機構の取組みと課題」と題して、(一社)九州観光推進機構の石原会長が講演を行った。九州全体の観光振興策やその成果、佐賀県、大分県の取組み等についてパワーポイントを使用し説明された。

栃木交流研究会

「陸上自衛隊 北宇都宮駐屯地・富士重工業（航空宇宙カンパニー）視察」

栃木交流研究会会長 関戸 優（SMB C日興証券株） 宇都宮支店支店長



日 時：平成27年11月20日（金）

会 場：陸上自衛隊 北宇都宮駐屯地・
富士重工業（航空宇宙カンパニー）

今年度2回目となる視察は、意外と知られていない「航空都市～宇都宮～」を探る視察。かつての「中島飛行機」からつながる陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地と富士重工業。宇都宮の中心地にありながら、普段はなかなか入る機会がない両所。間近に見るヘリコプターや航空機に、思わず童心に返ってしまう視察となった。

陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地見学



北宇都宮駐屯地は、1700mの滑走路を持ち、「航空科」を有する陸上自衛隊である。自動車免許を取るために自動車学校へ行くように、ヘリコプターの免許を取るための訓練を受けるのが、ここ北宇都宮駐屯地となる。航空学校宇都宮校として、全国で活躍するヘリコプターパイロットの約7割を養成しており、日本最大のヘリパイロット養成学校である。



陸上自衛隊としての役割や日頃の訓練の様子について説明を受け、9月にあった「台風18号等による大雨洪水災害」で出動した際の緊迫した状況についても、詳しく話を聴くことができた。



また、操縦シミュレータを使用したの操縦訓練や滑走路での飛行訓練など、日々の厳しい訓練に励む隊員たちの姿を間近に見ることができた。



参加した会員との積極的な意見交換も見られ、充実した視察となった。

富士重工業（航空宇宙カンパニー）見学



午後からは、自衛隊・北宇都宮駐屯地に隣接する富士重工業へ。その原点は「中島飛行機」。その技術を受け継ぎ、航空機の開発や生産を行う「航空宇宙カンパニー」を視察させていただきました。

高い専門性と技術力を生かし、ボーイング社旅客機の主要部位の製造や、ヘリコプターの製造、維持整備などを行っている。セキュリティの関係で、普段はなかなか入ることができない製造現場を、今回は特別に見学させていただいた。（工場内は写真不可のため、工場内の写真はなし）



精密さが要求される現場では、作業員も真剣そのもの。こだわりのモノづくりに対する情熱が伝わってきた。また、製品開発に向けての様々な実験装置や巨大設備が整えられており、少しでもより良いものを目指して、日々、研究開発が進められている現場を実感することができた。



最後の質疑応答では、活発な意見交換が行われた。技術の継承に関する質問が出たり、仕事に対するモチベーション、責任感という部分についての意見交換がされたりと、有意義な時間となった。

第2回地域活性化支援実行委員会 ロサンゼルス視察

委員長 酒井 誠 (株)酒井建築設計事務所 代表取締役社長

日時：平成27年11月20日(金)～24日(火)
場所：アメリカ合衆国ロサンゼルス
参加者：8名

スポーツを通じた地域活性化について調査研究している当委員会では、バスケットの本場である米国のロサンゼルスへNBA/ロサンゼルス・レイカーズのホームゲームやスタジアムの視察を行った。また、経営者の方も多く加入しているロサンゼルス・栃木県人会との交流会も行った。

1. ロサンゼルス

(1) 概要

ロサンゼルス市はカリフォルニア州の南部に位置し、同州最大の都市で、ニューヨークに次いでアメリカ合衆国第2位の人口規模を誇る。航空宇宙やエレクトロニクス、映画・エンターテインメントなどの産業が発達している。

都市の経済規模(GDP)は東京、ニューヨークに次いで世界第3位である。

人口：約388万人、面積：約1,215km²

(2) スポーツ

ロサンゼルスには多くのプロスポーツチームの本拠地がある。メジャーリーグのロサンゼルス・ドジャース、NBAのロサンゼルス・レイカーズやロサンゼルス・クリッパーズ、NHLのロサンゼルス・キングスなどがある。

また、1932年及び1984年に2度夏季オリンピックの開催都市となった。

(3) ロサンゼルス・レイカーズ

ロサンゼルス・レイカーズは、NBA・ウェスタンカンファレンスに所属するプロバスケットボールの強豪チーム。1947年にミネソタ州ミネアポリスで誕生し、翌年NBA加盟。1960年ロサンゼルスに移転し現在に至る。優勝14回ファイナル出場28回プレーオフ出場52

回を誇る。

本拠地はカリフォルニア州ロサンゼルス。ホームアリーナはステイプルズ・センター。

(4) ステイプルズ・センター



ロサンゼルス・ダウンタウン中心街にある屋内競技場。事務用品企業でアメリカ合衆国1位のステイプルズ社が命名権

を取得。1999年に3億7,500万ドルの建設費をかけて完成。収容人数はコンサートで2万人、バスケットボールで約1万9千人。

NBAのロサンゼルス・レイカーズ、ロサンゼルス・クリッパーズ、NHLのロサンゼルス・キングスなどを始めとするプロスポーツ団体の本拠地である。年間250のイベントが開催され、400万人が訪れる。施設周辺には、会議場やレストラン、ボウリング場などの施設も数多くあり、スポーツ観戦後も楽しめる地域となっている。スポーツ利用以外ではコンサート、ミュージカル、入学式、卒業式などに利用されており、毎年2月には世界最大の音楽祭・グラミー賞も行われている。

(5) レイカーズ試合観戦とスタジアム

今回は、リンク栃木ブレッक्सの藤本常務様にお手配いただき地元ロサンゼルス・レイカーズのホームゲーム観戦とスタジアムの視察を行うことができた。試合会場のステイプルズ・センターは市内中心街にあり、試合開始前から多くの人で賑わっていた。



ここまでの成績は2勝10敗と負け越しているが、チームカラーの黄色のシャツを着た人たちが目立ち、子供から大人、お年寄りまで



幅広い年代に支持されている地元のチームと
いうことを改めて認識させられた。スタジア
ムに入ると、通路が広く、開放感があった。
飲食や関連グッズ等の売店も充実しており、
特に飲食では人気がある日本食なども売って
いた。

指定席に座りまわり
を見わたすとそのスケ
ールの凄さに圧倒された。
コートを中心に360度、
観戦をさえぎるような



支柱などもない。3階まである観客席の多さや、
天井に吊り下げられた円柱のモニター、その大
きさにも勝るとも劣らない音響の迫力。さなが
ら人気アーティストのコンサート会場のように



あり、試合開始着前ま
で様々なイベントや場
内アナウンスが流れ、
観客を飽きさせない雰
囲気を作り出していた。

また、試合中はコートのみがライトアップされ
るかたちで臨場感にあふれていた。

全員で国家斉唱後、試合開始。対戦相手は
ポートランド・トレイルブレイザーズ。



終始競り合いの好ゲー
ムで観客も一体となっ
て地元ロサンゼルス・
レイカーズを応援。特
にスター選手のコービー・

ブライアントが活躍する度に会場は湧き上が
り興奮させられた。

ただ残念なことに、コービー・ブライアント
は一週間後の11月29日、今季限りで現役引
退を表明した。試合結果は、107対93で惜し
くも敗れたが、普段はTVでしか見ることの
できない試合を目の前で見ることができ、ま
た、選手と観客の一体感を肌で感じることで
きた。

また、試合観戦とは別に関係者のみ可能な
スタジアムのバックヤードの視察も行った。こ

こには地元チームのN
B Aのロサンゼルス・
レイカーズ、ロサンゼ
ルス・クリッパーズとN
H Lのロサンゼルス・
キングスのために特有
のロッカールームを含む、
ロッカーと更衣室等が
ある。コンサートやミュ
ージカルなど各種イベ
ントが行われるスタジアムでありながら、地元の
プロスポーツチームのために完備されている。



選手がいつでもリラックスすることができ万全
の体調で試合に臨めるよう配慮されており、そ
の設備の充実さにも驚かされた。

また、試合終了後、
選手や関係者の方と直
接触れ合えることもで
きた。これも地元の方
や関係者のみ行えるも
のであり大変貴重な体験となった。



(6) ロサンゼルス栃木県人会との交流会

NBAの視察と並行して、ロサンゼルス
の栃木県人会と交流会を行った。酒井委員長、
佐藤会長の挨拶のあと、栃木県経済同友会の
概要等説明、自己紹介を行うなどして栃木県
出身者の方と親交を深めるとともに、栃木県
経済同友会も選考や資金面で協力している
「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログ
ラム地域人材コース」において海外でのイン
ターンシップ受入の依頼も行った。



〈ロサンゼルス栃木県人会について〉

1992年3月3日設立。会長は佐藤芳江氏。
現在の会員数は70家族、約140人。年間の主
な行事は、2月の新年総会、8月のBBQピ
クニックでありこれは年間の最大イベントで
ある。

2011年10月には創立20周年記念祝賀式典を
開催しており、栃木県からも福田知事をはじ
め関係者が多数出席している。また、昨年5
月には佐藤会長が日系社会に貢献した女性を
讃える「Women of the Year」に選ばれる
など、栃木県とアメリカの架け橋として様々
な活動を行っている。

〈留学生の就職体験（インターンシップ）受 入の依頼について〉

「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プ
ログラム 地域人材コース」については、栃
木県が今年2月に正式に採択された。栃木県、
大学コンソーシアムとちぎ、栃木県経済同友
会が協力して事業を進めていくものであり、
海外での留学生の就職体験（インターンシッ
プ）が必須となっている。そこで、今般の視
察の一環としてロサンゼルス栃木県人会にイ



ンターンシップ受入をお願いしたものである。
当日は、酒井委員長がインターンシップ受入
の主旨を説明し、栃木県の福田知事、大学コ
ンソーシアムとちぎの石田理事、そして当会
の小林筆頭代表理事の3者連名の依頼文を佐
藤会長に渡した。佐藤会長からも「可能な限
り協力していく」旨の返事を頂いた。



(7) おわりに

試合の迫力は勿論のこと、スタジアムの仕
掛けと設備の充実さは想像を絶するものがあ
った。



観る者を飽きさせな
い演出やチームや選手
たちを支えるロッカールーム。そのすべてが
NBAなのだ実感し
た。

人気や歴史、人口数は違うが、地域にプロ
スポーツチームが存在することは同じである。
この貴重な体験を活かし、今後は経済界とし
ていかに4つのプロ
スポーツチームを通じて、
栃木県の活性化につな
げていくかを考えさせ
られる視察となった。



第3回産業政策委員会

「女性活躍推進シンポジウム～栃木県産業の成長に向けて～」

委員長 板橋 信行 (株)板通 代表取締役社長



日 時：平成27年12月8日(火)

16：00～18：00

会 場：栃木県総合文化センター

出席者数：93名

産業政策委員会は本県産業の発展には女性の活躍が不可欠との考えのもと調査研究活動を行っている。本シンポジウムは、これまでの当委員会の活動を振り返り当委員会の事業は社会的な機運の醸成につながっているのか、また実際に女性の働く現場に変化は起きているのかを確認したく開催した。パネリストにはこれまでの当委員会事業に関わった方々をお呼びした。

【板橋委員長 挨拶趣旨】



当委員会は「栃木県産業の成長に向けた新たな戦略～女性が積極的に参画できる社会を目指して～」をテーマに活動している。この

テーマを2つの切り口から調査研究してきた。

1つ目が「女性が企業内で活躍できる仕組み」、2つ目が「女性起業家を輩出し易くする仕組み」。本日は前者について考察する。これは栃木県経済の発展に向けての重要な課題だ。ご参加いただいた皆様には本シンポジウムを有意義な時間としていただきたい。

【パネリスト】

野田 和郎 氏 (株)ハヤブサドットコム代表取締役

藤沼 千春 氏 白鷗大学進路指導部 アドバイザー

滝澤智恵子 氏 渡辺建設(株) 営業部

石幡 愛 氏 下野新聞社 政経部記者

渡邊 秀一 氏 栃木県産業労働観光部労働政策課 主任



【パネリスト 発言要旨】

(野田 和郎 氏)

本日は女性活躍推進がテーマなのでそれを中心にお話しをするが、当社では特に女性に活躍してもらおうとは考えていない。従業員全員に輝いてもらいたい、そう考えて経営してきた結果、女性が働きやすい、女性が活躍できる職場になっているのだと思う。当社は幹部社員の女性比率が42%、女性幹部社員のママ比率は44%となっている。

日本には女性や障がい者が働きづらい企業が多いのが実態。なぜか。働く環境が会社の

都合によってつくられているから。長時間勤務が評価・重宝されてきた。しかしこれからの企業経営に必要なのは多様性の受容。置かれた立場の違いや異なる環境をお互い認め合い尊重する風土・文化を根付かせること。当社ではこれを「お互い様風土」と言っているが、これが女性活躍推進を進める上で一番重要。

女性活躍のための制度や設備は当たり前。当社でも社内託児所の設置や保育施設費用補助制度等、環境整備に努めている。これは当然のこと。重要なのは経営者・経営幹部主導のもと「お互い様風土」を構築し会社の隅々まで浸透させること。この文化が出来上がるとすべての社員が生き生きし、シナジー効果がでてくる。社員の潜在能力が開花し、さらにお互いを高め合う、という好循環が生まれると考えている。

私は社員が生き生きする職場環境をつくるのは会社の責務だと思っている。企業の目的は社員を幸せにすることだから。社員を幸せにできる会社が「いい会社」だから。



～(株)ハヤブサドットコム の取り組み～
積極的な女性幹部登用（女性比率42%）
育児支援制度（配偶者出産休暇等）
障がい者支援（正社員に5名の障がい者）
介護支援（介護休暇整備等）
（藤沼 千春 氏）

企業内女性活躍推進を進めるにはトップの意識がとても重要になる。女性活躍推進を進めようとする経営者の方々にはトップダウン

の重要性を再認識していただきたい。

現場で働く女性には是非男性を巻き込んで仕事をしていただきたい。女性だけの世界で仕事をしていては何も変わらない。また、目の前の仕事、ふってきた仕事に積極的にチャレンジしてもらいたい。



栃木県内の企業をみると女性が活躍している企業が増えてきているとは感じる。しかし一方、地元大手企業でありながら旧態依然として男性中心の会社も見受けられる。現場では多くの女性が活躍しているのに、管理職がゼロという企業もある。これは会社にとって、とても惜しいと思う。会社がさらに成長できる機会を自ら手放しているように感じる。

県内の様々な組織が女性活躍推進活動を行っているが、当委員会はそれを長期間に渡り継続しているところに価値がある。しつこくやる。県内では女性活躍推進の気運は醸成されてきた。是非今後もこの活動を継続し、女性活躍推進などという言葉が必要のない地域にしていっていただきたい。

（滝澤智恵子 氏）

私は平成元年に施工管理者として渡辺建設に入社した。4年前に男女雇用機会均等法が制定されてはいたが、女性が働きやすいとはお世辞にも言えなかった。男性社員の意識、トイレをはじめとする環境面など多々問題があった。

それから四半世紀が経ったが性差の隔たりはとても小さくなったと感じる。そこには「みんなで一緒に建物を作り上げる」という

共通の目標がいつもあった。現在渡辺建設には活躍する女性社員がいるが、私が入社当時感じていた不満を聞くことはない。

昨年、「とちぎで輝く☆ウーマンプロジェクト」事業の一環である「キャリアマネジメント講座」に参加した。同期生との話し合いの中で職場環境の話題がよく出た。日本企業の多くは男性が作り上げた。そのため男性の価値観による規約・文化となっている。ここを変えていく必要があると思う。

また、行政の皆様、企業経営者の皆様には労働力補填のためでない女性活躍推進を進めていただきたい。

(石幡 愛 氏)



下野新聞では「とちぎウーマン」と題し、県内で活躍する女性を取上げ記事にしている。これは、当委員会とのコラボ企画。「とちぎウーマン」の取材で出会う女性は皆仕事に真摯に向き合っていて素晴らしい女性ばかり。しかし彼女たちは特別な存在だと感じる。能力しかり、やる気しかり、そして運も。

これまでの社会の中では女性が活躍するには、子育て面をはじめとして環境に恵まれる運が必要だったのではないか。しかしこれからの時代、運のある女性だけが活躍する社会では日本経済は成り立たない。多くの女性が活躍できる社会をつくるべき。経営者は女性が活躍できるような会社の仕組み・制度を整える責任があると思う。

女性活躍推進が叫ばれるようになり、県内でもその気運は高まってきている。女性自身

の意識も変わりつつはると思う。しかし様々な企業を取材していると、役職者が全員男性の会社や、女性が活躍できる制度が整っていない会社もまだまだ多い。経済界から引き続き女性活躍推進の気運醸成に向けた活動を続けていただきたい。

(渡邊 秀一 氏)

※渡邊氏からは「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に関する説明があった。

【質疑応答】

質疑応答の時間は、パネリストと参加者の間で積極的な意見交換があった。



【意見交換会】

シンポジウム終了後、レストラン「ラカンタ」にて意見交換会を行った。井芹副委員長から乾杯の挨拶があり、和やかな雰囲気の中、参加者は女性活躍推進についての意見交換をした。産業政策委員会委員のほか、一般の方にも参加いただいた。

未来経営研究会 第3回例会
伊香保温泉視察
代表世話人 郡司 祐一 (株関東農産 代表取締役)

日 時：平成27年12月10日(木)～11日(金)

場 所：栃木県足利市、群馬県

参加者：20名

「優れたリーダーシップの獲得」～未来を創るリーダーたる人間力向上～を活動テーマとしている当研究会では、第3回例会として(有)ココ・ファーム・ワイナリーと伊香保温泉の視察を行った。多くの学びとともに、未来経営研究会のサブテーマである「会員同士の親睦」も図ることができ、有意義な2日間であった。

【(有)ココ・ファーム・ワイナリー視察】



ココ・ファーム・ワイナリーは、障害者支援施設こころみ学園のワイン醸造場である。1950年代、当時中学の特殊学級教員だった川田昇氏と少年たちが勾配38度の山を切り開き、葡萄栽培を始め現在に至っている。ココ・ファーム・ワイナリーのワインの評価は高く、九州・沖縄サミットの晩さん会等で使用された。



ワイン醸造過程、設備、こころみ学園の歴史等の説明をお聞きして、昼食では極上のワインを堪能した。

【伊香保温泉視察】

伊香保温泉観光ガイドの会「遊友」の富永会長から伊香保の歴史や文化等について説明を受け、温泉に浸かり、日頃の疲れを癒した。

2日目は、視察組と親睦ゴルフ組に分かれ、視察組は、富岡製糸場、群馬県庁「大河ドラマ館」視察、ゴルフ組は吉井カントリー倶楽部にて親睦を図った。



《世界遺産 富岡製糸場にて》



平成27年度 ファミリークリスマス会

日 時：平成27年12月17日(木)

18：30～20：30

会 場：ホテル東日本宇都宮

一年の締めくくりに開催される、恒例のファミリークリスマス会が今年も開催された。この会は、会員とその家族を招待し、お互いの親睦を深めること目的とした、大変和やかでアットホームな行事である。年末の忙しい時期にも関わらず、お子様やお孫様連れのご家族や、仲睦まじいご夫婦での参加など、100名を超える（総勢108名）会員とそこにご家族にご参加いただいた。



はじめに小林筆頭代表理事から開会のご挨拶があり、「会員同士の親睦をより一層深め、今後とも栃木県経済同友会への御理解と御協力をお願い申し上げます。」と述べられた。

今年度は、栃木県初のプロオーケストラ「MCFオーケストラとちぎ」の「弦楽四重奏」のメンバーによる演奏会からスタート。本格的なクラシックの素敵な音色に会場中が包まれた。



【出演者（敬称略）】

MCFオーケストラとちぎ「弦楽四重奏」

上保 朋子（第一ヴァイオリン）

矢嶋 暁子（第二ヴァイオリン）

生沼 晴嗣（ヴィオラ）

町田 正行（チェロ）

【乾杯・会食】

演奏会終了後、中津代表理事による「メリークリスマス」の乾杯のご発声とともに、会食、歓談となった。



【プレゼント抽選会】

サンタクロースに扮した武藤マネジャーとトナカイに扮した國分マネジャーがスポットライトを浴びて登場。受付時に引いた抽選券の番号ごとに、会員の皆様からご提供いただいた数多くのプレゼントが参加者に手渡された。今年度も会員の皆様から真心いっぱい協賛品が届けられ、一足早いクリスマスプレゼントに、参加した皆さんの笑顔や歓声が会場中に広がった。





【トーク&演奏会】

プレゼント抽選会の盛り上がりや冷めやらぬ中、「MCFオーケストラとちぎ・弦楽四重奏」のメンバーが再び登場。今度は、楽器紹介などのトークも交えながら、クリスマスソングを中心に演奏会が催された。



途中、会員の渋井誠さんによるハーモニカの飛び入り参加も重なったり、ハッピーバースデーのサプライズ演奏が入ったりと、会場は大いに盛り上がった。



演奏終了後には参加者を代表して長尾亜美ちゃん、藤咲光琉くん、高薄望沙ちゃん、齋藤帆乃香ちゃんから「MCFオーケストラとちぎ・弦楽四重奏」のメンバーへ感謝の花束が贈呈された。



終始、すてきな演奏でクリスマス会を盛り上げてくれた「MCFオーケストラとちぎ・弦楽四重奏」のメンバーには、会場から賞賛と感謝の拍手が送られ、楽しかったクリスマス会も大盛況のうちに終了となった。



そして最後に、飯村理事による閉会の挨拶があり、「Happy New Year!」という掛け声とともに、2時間に及ぶ、大変華やかなファミリークリスマス会はお開きとなった。



中学校・高等学校への講師派遣事業

社会貢献活動推進委員会委員長
生方 玉也 (㈱エイム 代表取締役)

第4回講師派遣



日時：10月21日(水) 13：30～14：20

会場：栃木県立宇都宮工業高等学校

対象者：1年生 約320名

講師：古口 勇二 氏

(㈱古口工業 代表取締役)

演題：『産業界で必要とされる力とは何か』

【講話の概要】

「あいさつが基本」

あいさつが基本。あいさつが一番。あいさつだけはどんな時も忘れないでほしい。きちんと相手の目を見て、大きな声ですることが大切。

「コミュニケーション能力の向上」

「コミュニケーションとは何でしょう？」
コミュニケーションとは、相手と意思の疎通を図ること。バスケットやサッカーでパスを出すときに、相手の取りやすいパスを出さないと通らないように、送り手は受け手の気持ちを考えなければいけない。この考える力がコミュニケーション能力。コミュニケーションの基本は「人と人」である。是非、今ここにいる1年生320人全員の苗字と名前を、卒業までには書けるくらい全員と仲良くなりたい。

また、「人とモノ」との関係もある。機械

の音を聞いてその機械の調子分かるように、「ものづくり」の現場では、「人とモノ」とのコミュニケーションも大事である。

特にコミュニケーション能力の中で重要なのは、「思考力」「対話力」「実践力」。この3つが伴ってこそそのコミュニケーション。世の中に出て大切なのは何と言ってもコミュニケーション能力。常に意識して高めていってほしい。

「継続は力なり」



人間として大切なことは、「当たり前のことを当たり前のようにやり続ける」こと。私の一番大好きな言葉は「継続は力なり」。簡単なことでもやり続けてほしい。徹底してやり続けてほしい。これが成長への一番の近道。

「人生は楽しい」

「ポジティブ」という言葉の意味は、前向き、プラス思考という意味。人生は楽しむもの。楽しくない人は、どうしたら楽しくなるのか考えてほしい。もちろん人生はいいことばかりではない。失敗することもある。負けることもある。でも、たくさん失敗してほしい。たくさん負けてほしい。失敗する、負けるということは、そこに何か原因があるはず。それをしっかり見つめて、次に生かせばいい。常に「ポジティブ」に、人生を楽しもう。

「AKB」を忘れずに

「あいさつすること」「感謝すること」「勉強すること」この3つの頭文字のアルファベットを並べると「A(あいさつ)K(かんしゃ)B(べんきょう)」になる。「AKB」を忘れずに、充実した高校3年間を送ってほしい。

第5回講師派遣



日時：10月29日(木) 14:00～15:30

会場：栃木県立宇都宮中央女子高等学校

対象者：1～3年生、教職員 約840名

講師：河又 弘子 氏

(株)下野新聞社 編集局 政経部 部長代理

演題：『新聞からの発見～現在・過去・未来～』

【講演会の概要】

「自分の仕事について」

下野新聞は県内で31万部を発行している。編集局には分かっている範囲で、自分も含めて宇都宮中央女子高卒が3人いる。現在は政経部の経済デスクをしているが、高校生の時に想像していた自分とは全く違う自分になっている。

「新聞から見る将来の夢」

将来の夢を描いていますか？下野新聞では、小学生を対象に「将来の夢」取材して掲載するコーナーがある。読むと、小さいうちからしっかりと夢を抱いていることに驚く。自分は高校生のころからマスコミに進みたいと思っていた。新しい情報に真っ先に触れられるところにあこがれた。大学では教職も取ったが、母校である本校で教育実習をしたかったから、高校時代に先生から「教職には向いていない」と言われ（自分でもそう思う）、教員にはならなかった。

「働く女性が少なかった時代」

大学時代、実は新聞社は女性をほとんど採用していなかった。「男子記者募集」と堂々

と社告が出ていた。在学中、男女雇用機会均等法ができて、ようやく女性に対して門戸を広げたが、新聞記者としての女性の採用は大変少なかった。

「新聞記者としての仕事」

2013年に田中正造が没後100年を迎え、当時、私は佐野支局長だったので、長い連載のキャップを務めた。正造は、下野新聞の編集長をやっていた時期もある人。東日本大震災で起こった原発事故で、正造が再び脚光を浴びた。正造が100年も前に「真の文明は 山を荒さず 川を荒さず 村を荒さず 人を殺さざるべし」と残していたからで、音楽家の坂本龍一さんがそれを紹介し、一気に話題の人として広まった。それをきっかけとして、坂本龍一さんに取材を申し込み、記事にもした。

「30年後の自分」

私が卒業して30年たったが、皆さんは30年後、自分がどうなっていると思うか？ぜひイメージしてほしい。新聞には「政治家たちが『女性もっと活躍する時代にしないと』と言っている」と書いてある。

現代は少子高齢化が進んでいる。今の出生率は1.42。このままではどんどん人口は減ってしまう。日本はもっと子どもを産みやすい社会を目指さなければいけない。女性が活躍するためには、仕事をしながらも出産・育児ができる体制を整えなければいけないと書いてある。

「女性の活躍」

最近、女性の管理職に関する記事が載ったが、県内の民間ではまだ7.4%。地方に仕事を作り、女性が働きやすい環境が整わないと、出生率や管理職の割合は上がっていかない。選挙権の年齢が18歳から引き下がるが、将来の環境を自ら整え、決めていくためにも、新聞をしっかりと読んで、選挙には必ず行ってほしい。皆さんが私くらいの年齢になった時、社会で大活躍していることを強く願っている。

第6回講師派遣



日時：11月18日(水) 10：35～11：25

会場：鹿沼市立南摩中学校

対象者：1～3年生 約80名

講師：山村 達夫 氏

学校法人 金子学園まこと幼稚園 理事長

演題：『ウルトラマンになれなかったボク』

【講演会の概要】

「ウルトラマンになれなかったボク」

自分は小さい頃からウルトラマンになりたかった。中学生の時に母親を亡くし、人に迷惑をかけずに生きていかなければと思った。高校は、自分が行きたかった高校へは行けなかった。大学生の時にすばらしい先生方と出会い、教育の世界に関わるようになっていった。

仕事では初めてのことに次々とチャレンジした。海外の学校と提携を結んだり、県内初の身体障がい者向けの施設を作ったり、分からないながらも社会の役に立つ仕事をしないといけないと思い、それを形にしてきた。ウルトラマンにはなれなかったが、ウルトラマンのように、人の役に立てる仕事が出来ているのかなと思う。

「未来の自分を思い描く」

自分の小学校5年生の娘には、「魔法使いになりたい」という夢がある。「ほうきに乗って困っている人を助けたい」そうだ。ファンタジーなことを言っているようだが、自分は馬鹿にできないと思った。自分が「こうしたい！」という思いは大切に持っていてほしい。

「夢は自分で見つけること」

自分にとっての夢や目標が見つければ、そのためにやるべきことはおのずと見えてくる。ただ、夢や目標というものは、自分で見つけることが大切。時間はかかってもいいから、自分で見つけてほしい。

「今、学ぶことの意味」

今、中学校で勉強していることは、人生にとって大切なもの。無駄なことは一つもない。今勉強している一つ一つの点が、社会に出ると線となってつながっていく。

「やると決めたらやり続けよう」

一度「やろう！」と決めたことは、是非続けてほしい。迷う時もあると思うが、「やる」という方を選択できる自分になってほしい。今は「やり癖」を身に付けてほしい。



「命というのは自分が使える時間」

命というものは、自分が使える時間だと思う。今は、自分が使える時間を自分のために使うことが多いと思うが、大人になったら是非人のために使える人になってほしい。自分の命を大切にできなったら、人の命も大切にできない。自分の夢も叶わない。命を大切にしてほしい。

「人生で成功するために…」

人生で成功するために大切なことが3つある。1つ目は「素直であること」。2つ目は「楽観的（前向き）であること」。3つ目は「勉強好きであること」。自分の夢を大切にしながら、すばらしい人生を歩んでいってほしい。

第7回講師派遣



日 時：11月26日(木) 14：00～14：50

会 場：日光市立湯西川中学校

対象者：1～3年生、教職員 約13名

講 師：林 明夫 氏

(株)開倫塾 代表取締役社長

演 題：『社会の変化に主体的に対応できる
力とは～一生勉強・一生青春～』

【講演会の概要】

「好きな言葉」

自分には、時々読み返して自分の支えとしている好きな言葉がある。「学問に王道なし」「練習で泣いて試合で笑え」「ブルドッグ魂、食いついたら離すな」「一所懸命」「スポーツの3つの宝①練習は不可能を可能にする②フェアプレー③良き友」などである。皆さんも好きな言葉に出会ったら必ずメモし、自分の支えとしてほしい。

「これからの社会に求められること」

これからの社会は、知識が基盤となる社会。専門的な技術や知識が求められる時代。コンピュータに関しても、「ワード」と「エクセル」は必須。勉強に関して言うと、「数学」が一番大切。また、グローバルな社会になっていくので、多様な集団で交流する能力が求められる。そのためには英語が必要。特に中2～3くらいの英語が大切。英語は必ず「音読」すること。

「知識や能力を身に付けるために」

知識や能力を身に付けるために大切なことは「読書」。図書室にある本を全部読むくら

い頑張って読んでほしい。読書によって思慮深さが身に付く。新聞も読んだ方がいい。新聞を読むと、「自分で考える力」、「批判的思考」が身に付く。

「効果の上がる学習方法」

理解 分からないことは気持ち悪いと思って辞書で調べること。調べたら意味を書き留める。授業中にノートを上手にとることも能力。

定着 理解したことを定着させるには、まず声に出して読む。次に書き取り。そして練習問題。このステップが「理解」の「定着」に直結する。

応用 身に付けたことを、日々の生活で役立てる。学校で学んだことはすべて役立つ。無駄なことは一つもない。日本の学校で行う「掃除」の習慣も、社会に出てからとても役に立つ。



「仕事とは？」

仕事とは、お客様のお役に立つこと。社会のお役に立つこと。そして、生活するための収入を得ること。

「最後に一言」

自分や相手のいいところを探し出して、互いに認め合い、仲良くしていこう。自分や他人をあまり責めないように。

そして何より健康が大事、「健康第一」。タバコだけはやらないように。心の健康、体の健康に気を配っていこう。

最後に、「一生勉強・一生青春」という言葉は、自宅の近くに住んでいた「相田みつを」先生の言葉。これを忘れず、充実した人生を歩んでほしい。

第8回講師派遣（第1部）



日 時：12月10日(木) 13:40～14:30

会 場：鹿沼市立北犬飼中学校

対象者：2年生 約112名

講 師：生方 玉也 氏

(株)エイム 代表取締役

演題：『生き方を考える～大きな夢に向かって～』

【講演会の概要】

「姿勢が大事」

北犬飼中学校は、弓道部が全国2位になったというのをホームページで見た。小さい学校なのにすばらしいと思う。私は弓道の姿勢のよさにあこがれている。人間にとって姿勢のよさというものは大変重要。自分も常にいい姿勢を意識している。いい姿勢でいることで、頭や体の調子がよくなるのを実感している。

「自己紹介」

自分の名前は「玉也」。宝石の原石は磨けば磨くほど輝きを増す。人間も同じ。自分自身を磨き続け、玉（宝石）のように輝いてほしいという親の願いが込められている。今でも常に自分自身を磨かなければいけないと思っている。

「目標は見えるように」

会社の経営方針は、全社員に見えるように掲示している。目標は頭で思っているだけでは駄目。高校受験の時なども、「〇〇高校合格」というように書いて貼り出した方がよい。

「5S（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）」会社では「5S」を実践している。「5S」と

は、「整理・整頓・清潔・清掃・しつけ」の5つ。なぜやっているのか？すべて意味がある。これらを徹底することで、仕事が効率的で、やりやすくなる。また、安全できれいな職場になる。その方が気持ちよく仕事ができる。つまり、「良い会社をつくるため」という目的で実践している。会社以外でも役に立つことだと思うので、ぜひ参考にしてもらいたい。

「当たり前を当たり前」

当たり前のことを当たり前にするだけでは足りない。当たり前のことを、徹底的にやることによって、他社にはない差別化を産み出している。



「学ぶことの大切さ」

なぜ今、学校で学んでいるのか？一つ目は「必要な知識を身に付ける」こと。もう一つは「豊かな人間性を身に付ける」こと。社会に出てからは、この「知識（ツール）」と「人間性」を生かし成果（利益）を出していく。今はその人間としての基礎を学んでいる重要な時期。

「成果（結果）＝**経験**×**知識**×**人格（人間性）**」

目標や夢の実現のためには、経験、確かな知識、豊かな人間性が掛け算のように関わりあっている。気を付けなくてはいけないことは、知識や経験にマイナスはないが、「人間性にはマイナスがある」こと。いくら経験や知識があっても、掛け算にマイナスが入ることでは答えはすべてマイナスになってしまう。

「最後に」

自分の生き方は自分で決めるもの。悔いのない中学校生活を送ってほしい。

第8回講師派遣（第2部）



日 時：12月10日(木) 14：40～15：30

会 場：鹿沼市立北犬飼中学校

対象者：2年生 約112名

講 師：大野恵美子 氏

(株)キッズコーポレーション 取締役副社長

演題：『生き方を考える～大きな夢に向かって～』

【講演会の概要】

「自己紹介」

自分は鹿沼生まれの鹿沼育ち。24歳の時に県内初のベビーシッターサービス「ピーターパン」の設立に関わった。レディオベリーの「キッズファースト」という番組で、子育ての悩み相談も担当している。

「姿勢・お辞儀について」

今日はお辞儀についての実践練習を行いたい。お辞儀には、目的に合わせて様々な種類がある。「会釈」「中礼」「敬礼」「最敬礼」などである。まず立ち方について。立った時にはしっかりとかかとを付ける。そして、お辞儀で大切なのは、お辞儀の角度と目線。「会釈」は15度に曲げ、目線は5m先を見る。「敬礼」は45度に曲げ、目線は1.5m先を見る。「会釈」は廊下で目上の方とすれ違った時、「敬礼」は面接などで必要となるので、是非とも活用してほしい。

「自分の夢」

小学校の教員だった両親の姿を見て、教育者にあこがれた。ただし、実際に自分になってみると、思うようにできずに落ち込んだり、涙を流したりする毎日だった。でもいつか仕事の

できる先生になりたいと願っていた。そして、24歳の時に理想の保育に出会い、こんな保育ができる幼稚園を作りたいと思った。そして今は、全国82か所の保育に携わるまでになった。



「使 命」

自分はなぜ生きているのか？「使命」というのは「命の使い方」。どうやって自分の命を使っていくか。私にとっては「乳幼児保育」が使命。保育を通して、人々の心に明かりを灯すことと考えている。

「自尊感情を育む」

〔生徒がワークシートに自分のいいところを10個書き込む〕

自分自身をかけがえのない存在だと認識し、自分を好きになる。これが「自尊感情」。自尊感情を育てることで、自分と他人は違って当たり前ということが分かり、穏やかな気持ちでいられるようになる。人間関係も良好になる。

「夢が叶いやすい人の条件」

- ①明るく元気な挨拶ができる。
- ②誰に対しても平らな気持ちで接する。
- ③片付けや整理整頓がきちんとできる。
- ④時間や期限をしっかりと守る。
- ⑤プラスの言葉を発する。
- ⑥人の話をよく聞く。
- ⑦自分を客観的に見られる。
- ⑧常に向上心を持つ。

「It's up to you. ～すべては自分次第～」自分は世界に1人だけ。自分の使命を自覚して、すばらしい人生を送ってほしい。

会務報告

平成27年11月～平成27年12月（敬称略）

内 容 ・ 日 時	議 事 ・ 報 告 等	出席者
企画運営委員会 第4回委員会 平成27年11月12日(木) 15:00～17:00	議 事 (1) 平成28年度事業活動方針・予算策定方針（素案） について 報告事項 (1) 新年例会の開催について (2) 正副委員長会議の開催について ※第1回全国経済同友会セミナー準備委員会開催 (1) 岡山大会の概要説明 (2) 部会毎の協議・検討	22名
社会貢献活動推進委員会 第4回委員会 平成27年11月18日(水) 16:30～17:30	議 事 (1) 上半期（4～9月）の活動報告 (2) 第10回社会貢献活動支援助成について (3) 中学・高校への講師派遣事業・ボランティア プロフェッサー事業について (4) 「アジア学院」との今後の連携について (5) 平成28年度教育担当委員会交流会（栃木開催） 報告事項 (1) 第3回社会貢献活動推進委員会 先進地（東京）視察について (2) 栃木県との協定に基づく災害時支援リスト (3) 「栃木県台風18号等災害義援金」への予算執行 について	14名
行財政改革委員会 第3回委員会 平成27年11月27日(金) 16:00～17:30	議 事 (1) 今後の方向性（目標）（案）について (2) 地域経済分析システム（RESAS）について	13名
企画運営委員会 第5回委員会 平成27年11月12日(木) 15:00～17:00	議 事 (1) 平成28年度事業活動方針・予算策定方針（案） について (2) 平成28年度モーニングセミナーのテーマ（案） について (3) 第2回4経済同友会交流会について 報告事項 (1) 第29回全国経済同友会セミナー岡山大会について (2) 県政記者会との意見交換会の開催について	18名
第5回理事会 平成27年12月15日(火) 16:00～16:30	議 事 (1) 会員の新規入会について (2) 寄贈品の受入れについて報告 報告事項 (1) 平成27年度上期 理事の業務執行状況について (2) 会員の異動について (3) 県政記者会との意見交換会の開催について	29名
第3回幹事会 平成27年12月15日(火) 16:40～17:30	議 事 (1) 平成28年度事業方針・予算策定方針について (2) 創立30周年記念事業について 報 告 (1) 第31回全国経済同友会セミナー会場について	10名

ボランティアプロフェッサー講師派遣事業

(11~12月)

○宇都宮大学 工学部〔講座名：経営工学序論〕

11月10日(火)	(株)大高商事 代表取締役 高橋 和夫 氏	80名
11月17日(火)	(株)大高商事 代表取締役 高橋 和夫 氏	80名
12月 1日(火)	(株)栃木銀行 代表取締役副頭取 鷹箸 一成 氏	80名
12月 8日(火)	(株)ブルーヒルズ 代表取締役 陳 賢徳 氏	80名
12月15日(火)	(株)ユーキャン 代表取締役 山田 義治 氏	80名
12月22日(火)	(株)ユーキャン 代表取締役 山田 義治 氏	80名

新しい仲間たち

●新入会員（敬称略・氏名50音順）

●平成27年12月15日 平成27年度第5回理事会での新規入会者

1. 会員



さいとう たかひこ
齋藤 孝彦
(株)不二ロジカーゴ
代表取締役社長

紹介者 上野 勝弘・郡司 祐一・佐藤 千秋



たむら あきら
田村 晃
(株)アイディ
代表取締役

紹介者 新井賢太郎・渡部 渉

●会員の交代（敬称略）※平成27年12月末日までの交代



りゅう たに なお あき
龍谷 直暁
オリックス自動車(株)宇都宮支店
支店長

変更前 飯島 正純

※平成27年12月末日現在の会員数は269名、準会員数は8名です。

引続き会員増強にご協力を願います。

(公社) 栃木県経済同友会行事予定

日・曜日	2 月 行 事 (内 容)	
5日(金)	栃木交流研究会 第3回視察	会場：県南方面 担当：田村
10日(水)	モーニングセミナー	会場：宇都宮グランドホテル 時間：8：00～9：00 担当：武藤
18日(木) ～ 21日(月)	未来経営研究会 台湾視察	担当：武藤
24日(水)	経営問題委員会 第3回委員会	会場：宇都宮東武ホテルグランデ 時間：15：00 担当：國分
26日(金)	県政記者との意見交換会	会場：宇都宮東武ホテルグランデ 時間：18：00 担当：高野
日・曜日	3 月 行 事 (内 容)	
5日(土)	「第9回社会貢献活動支援助成」活動報告会	会場：宇都宮大学 時間：13：00 担当：田村
9日(水)	モーニングセミナー	会場：宇都宮グランドホテル 時間：8：00～9：30 担当：武藤

- ・上記の予定は、1月8日までに確定しているものです。
 - ・開催未定の行事につきましては、確定次第、所属の委員・会員の方にご案内いたします。
- 栃木県経済同友会事務局 TEL 028-632-5511 ホームページ <http://douyuukai.jp>